都市計画マスタープラン策定演習　第１回中間発表　2013/11/25(金)

土浦を取り戻す！

５班　班長：安達修平　副班長：吉田太郎　金祥生　柳澤直哉　　TA：吉田崇紘

１．土浦市の現状

1-1．概要と人口

土浦市は茨城県の南部の中心に位置している。日本第二位の面積を誇る霞ヶ浦を面している。また筑波山とその山麓には田園風景が広がるなど自然豊かな街である。江戸時代には宿場町として栄え、現在でも多くの行政機関が居を構えている。そのため茨城県南部地域の中心的役割を担っている。また、市の人口は平成 25 年 10 月現在約 142,500 人である。これは茨城県内では水戸、つくば、日立、ひたちなかに次いで 5 番目に多い数字である。

1-2．観光の現状

土浦市の観光客数は概ね 150,000 人/年を推移している(図 1)。

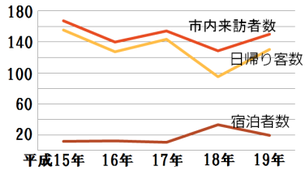


図１.土浦市の観光客数(万人)

5 年スパンで見るとわずかにではあるものの減少している。土浦市の観光客数は 4，7，10 月に集中している(図 2)。これは

・4 月：桜まつり
・7 月：キララまつり
・10 月：土浦全国花火競技大会

があるからで、特に 10 月の花火大会は全国から人を集める大きなイベントとなっている。これらの 3 大イベントの観光客数も増加もしくは維持傾向にあり、土浦市の大きな観光資源だといえる。しかし、裏を返せばイベントを行っていないときはほとんど観光客が来ないということがわかる。現在のイベントに大きく依存している状態は改善すべき大きな課題である。

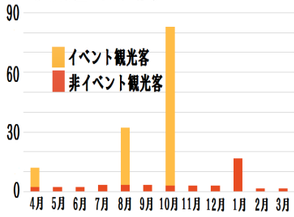


図 2.月別観光客数(万人)

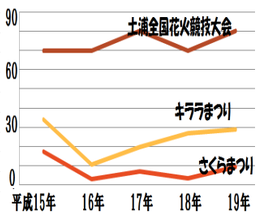


図 3.催し物別観光客数(万人)

土浦市の観光客数を場所･施設別に見ると、最も多くの観光客を集めているのは霞ヶ浦総合公園とわかる(図 4)。後に続くのは小町の里、亀城公園、土浦港である。

ここ数年、観光客数は減少傾向にあり特に霞ヶ浦総合公園はピークの平成 16 から 2/3 にまで減っている。

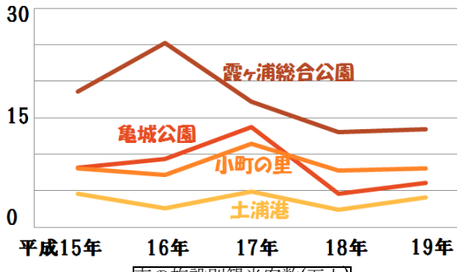


図 4.土浦市の施設別観光客数(万人)

1-3．交通の現状

茨城県の大動脈である常磐線と常磐道、国道 6 号線が市内を南北に貫いている。土浦市は茨城県南地域の交通の要所となっている(図 5)。

図 5.土浦市周辺の道路と鉄道

●土浦市を通る道路
・常磐自動車道（桜土浦 I.C.・土浦北 I.C.）
・国道 6 号線(バイパス拡張工事中)
・国道 125 号線
・国道 354 号線
・土浦高架道(県道 24 号バイパス)

●土浦市を通る鉄道
・JR 常磐線

地図を見ると土浦市内には北から神立駅・土浦駅・荒川駅沖の 3 つがある。この 3 駅の利用者数の合計は減少傾向にある。(図 6) 特に市の中心駅である土浦駅の利用者数は著しく減少しており平成 12 年には 21,507 人/日だったものが平成 24 年には 16,233 人日まで数を落としている。

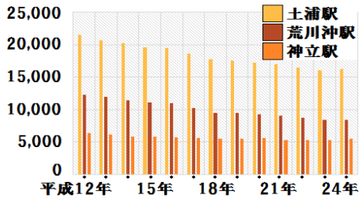


図 6.市内各駅の一日あたりの利用者数推移

●土浦市を通るバス

土浦市には主に関東鉄道(株)のバスが乗り入れており、他に JR バス、関鉄観光バス、土浦市が運営するまちづくり活性化バス｢キララちゃん｣がある。これも鉄道と同じく徐々に減少している。特に関東鉄道バスの利用者数が大きく減少しており、土浦駅の利用者減が大きく影響している。

図 7.一年間の各種交通機関の利用者数

土浦市民の買い物の際の利用交通機関を見ても 10 年間でバスなどの公共交通機関、自転車の割合が減り、その代わりに自動車への依存が強くなっていることがわかる。

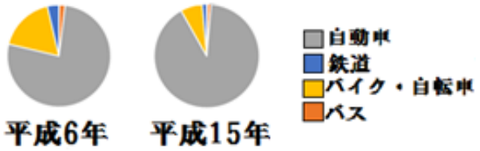


図 9.買物の際の利用交通機関

また、観光客の利用交通手段を見る(図 10)と、84%が自動車でやってくることがわかる。ほとんどの土浦市民、観光客が土浦市内の移動を自動車で行うため市内は車で溢れる反面、公共交通機関が換算としてしまっている。

図 10.観光客の利用交通機関

1-4．産業の現状

●工業

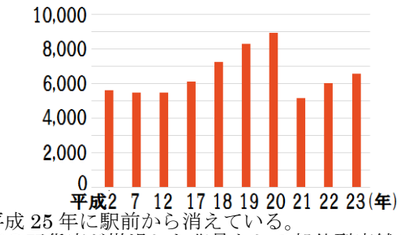
土浦市の工業は市内にある複数の工業団地によって支えられている。主要なものとして東筑波新治工業団地、テクノパーク土浦北工業団地、テクノパーク土浦北工業団地、土浦・千代田工業団地があり、これら 3 つは全て土浦市北部の神立駅や常磐道土浦北 IC の付近にある。

土浦市の工業力を表す指標として市の製造品出荷額等(図 11)をみると、平成に入ってからは 5000 万円前後で停滞していたが平成 10 年代後半に上昇し平成 20 年には 9000 万円弱を記録する。しかしその後下降し再び 5000 万円～6000 万円を推移している。このように 10 年代後半～20 年前半に変化はあったものの全体を見ると変化が少なく落ち着いている。市は新たな工業団地として市北東部のおおつ野に職住近接型の｢おおつ野ヒルズ｣を整備したが未だ参入企業は 1 社しかない。付近への協同病院移転などを含め今後の成長が期待される地域である。

図 11.土浦市製造品出荷額等(億円)

●商業

土浦市の商業年間取引販売額(図 12)は平成 2 年をピークに徐々に下がり、平成 13 年にはピーク時の 6 割にまで減少している。平成 5 年頃まで土浦市の商業を支えていたのは土浦駅周辺の商店街・百貨店・スーパーなどで市中心部が牽引してきた。しかし近年は土浦駅の前にあった西友が平成 10 年に閉鎖して以降、相次いで大型店の閉鎖撤退が起きており小網屋が平成 11 年に、東武ホテルが平成 12 年、丸井が平成 15 年、京成ホテルが平成 19 年、イトーヨーカドー



が平成 25 年に駅前から消えている。

駅前の百貨店が撤退した背景として郊外型店舗が出店したことや、隣のつくば市に大型商業店ができたことが挙げられ、中心市街地の空洞化が課題となっている。

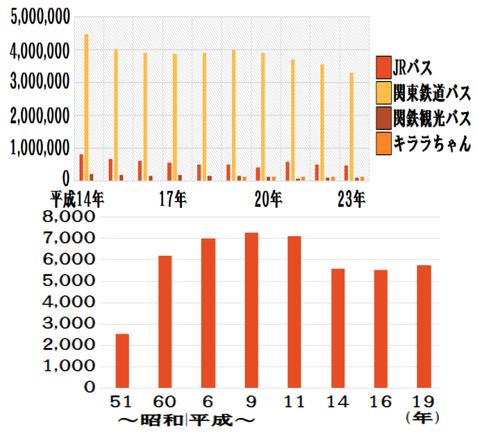


図 12.土浦市商業年間取引販売額(億円)

●農業

土浦市の農業は、東京大都市圏の郊外に位置するという立地を活かした近郊農業が主である。全国 1 の生産量を誇るレンコンをはじめとして、アルストロメリア・グラジオラス・菊・ヤナギを中心とした花きの栽培が盛んである。

農業産出額(図 12)を見てみると、大体 60 億から 80 億を推移して安定している。平成 18 年は 100 億円弱の産出額を記録するなど土浦市の農業は堅調である。

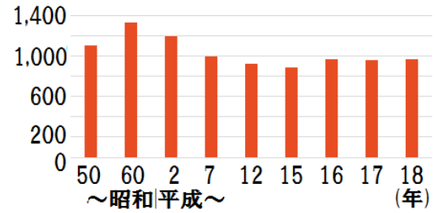


図 13.土浦市農業産出額(千百万)

●水産業

日本全国第二位の面積をもつ霞ヶ浦に面する土浦では水産業も行われている。

昭和 50 年ごろにピークを迎え川えび・はぜ・うなぎなどが取られていたものの、水門の設置など周りの環境に翻弄され、湖の汚染に伴って漁獲量は激減している。17,000 トンあったものが今では 2,000 万トン強となっている(図 14)。

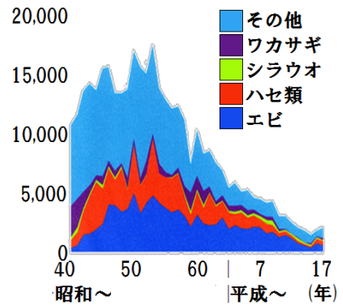


図 14.霞ヶ浦の種類別漁獲量(トン)

●土浦市の産業の課題とまとめ

土浦市の工業力・商業力・農業力がどのような変遷をたどったか把握するために過去 30 年間で、土浦市の製造品出荷額等・商業年間取引販売額・農業算出額が茨城県の何%を占めるかの推移を調べた(図 15)。

この結果、工業・農業はほぼ変わらない若しくは上昇しているものの、商業に関しては昭和末期の 12%から下がり続け、現在では 8%になっている。

そこで土浦市の産業の課題として、過去に土浦が持っていた商業力を再び取り戻すことが挙げられる。そのために特に衰退が著しい土浦市の中心街の活性化の方法に着目して進める。

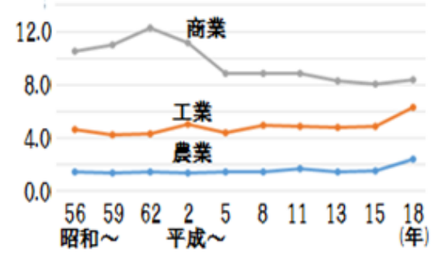


図 15.土浦市が茨城県に占める割合(%)

1-5. 景観・町並みの現状

①図 16 は「土浦市全体で土浦らしいと思う景観、魅力的な景観はどのようなものですか？」という市民アンケートに対する回答である。多い順に

・霞ヶ浦や桜川などの水辺景観
・花火や祭りなどの伝統･文化を感じさせる景観
・筑波山や霞ヶ浦など眺めの良い景観

が並ぶ。特に「霞ヶ浦」に対する思い入れが強く「霞ヶ浦」に関する項目を全てあわせると 4 割弱となることがわかる。また霞ヶ浦に代表されるような自然景観全般の項目に 6 割以上の市民が回答していることからも市民の自然への愛着がわかる。

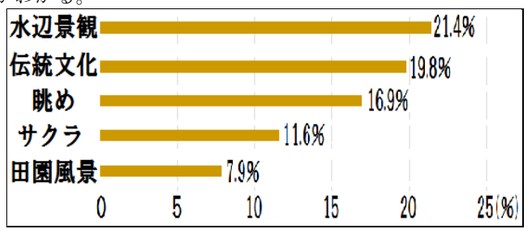


図 16.土浦らしいと思う景観は？

②図 17 の左のグラフは「町並みとしての一体性を欠く建物の高さや周辺と調和しない色彩についてどう思うか」について質問した結果である。市民の 68%がこれを問題だと捉えている。

③また図 17 の右のグラフは「町並みを損ねる空き店舗や駐車場化についてどう思うか」というアンケートの結果である。こちらは 91%の回答者が問題だと考えている。

二つのアンケート結果から土浦市を市民が住みよい町にするためにはこれらの景観を悪化させる要素を改善することが必要不可欠であるとわかる。

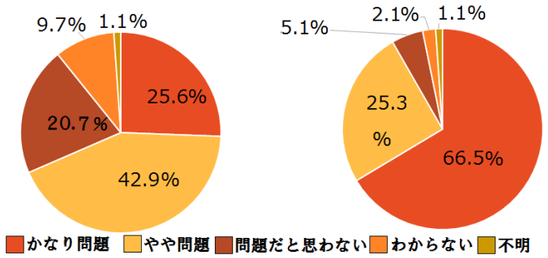


図 17.市民一体性を欠く町並みについて(左)
町並みを損ねる空き店舗や駐車場化について(右)

2. 課題のまとめ

・来訪者の約 6～7 割をイベント観光客が占めている。そのイベント観光客もほとんどが土浦花火競技大会によるものである。このためイベントが無い月は観光客がほとんど来ない状態である

・観光客の約 8 割が自動車で訪れているため、自宅⇔開催地の移動がほとんどになり、付近の商店に寄っていく客、歩く客が少なく街の賑わいに貢献していない

・ここ 10 年での公共交通機関の利用者が急速に減っている。このため土浦駅の地位低下による市中心部の商業力低下や、利用者減に伴うバス路線廃止により高齢者などの交通弱者が遠出できていない。

・水産資源として「霞ヶ浦」を活かせていない。

・中心街にもかかわらず駐車場になっている空き店舗が並ぶなど街並みの統一感が欠けている。またそれを市民自身が快く思っていないため余計に町を歩く人が減っている。

3. 提案

戦後しばらく茨城県第二の都市として発展してきた土浦市だが、次第にその地位を徐々に落としていった。

実際にコーホート要因法を使い土浦市の将来人口と高齢者の割合を予測した結果が図 18 である。

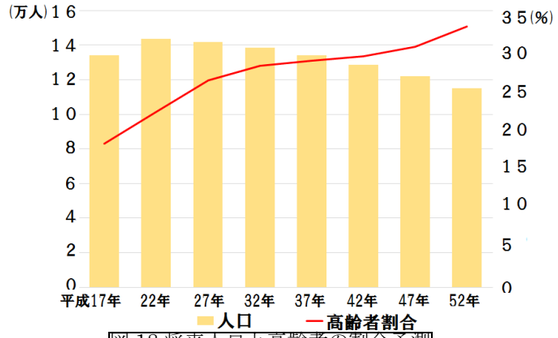


図 18.将来人口と高齢者の割合予測

そこで私たちは「取り戻す」をテーマに 5 つのアイデアを提案する。

① 「**人**」を取り戻す

土浦には霞ヶ浦、亀城公園、小町の里、霞ヶ浦総合公園など歴史や自然を生かした観光地が豊富であることをふまえ土浦を映画撮影地として活性化させ外部から人を呼び込み「フィルムツーリズム」を目指す。

映画やドラマのロケ地として実際に使用された例として「うさぎドロップ」という映画があげられる。「うさぎドロップ」では土浦市の商店街「モール 505」が使われており(図 19)、この事からも土浦市の高架下、ショッピングモールなど土浦の趣のある街並を映画で使うことができるとわかる。

また茨城は映画製作会社集中している東京から近距離でありながら自然豊かだというメリットもあり既にロケ地として注目されており、平成 14 年には『いばらきフィルムコミッション』が設立され県内の撮影相談役として窓口となっている。

図.19 映画「うさぎドロップ」の撮影風景

② 「**玄関機能**」を取り戻す

水戸街道の継ぎの宿場町だった(図 20)

「荒川沖」は江戸時代、交通の拠点だった。しかし今では土浦中心街に人や物、交通が集中している。そこでもう一度、土浦との公共交通機関の中継ぎ機能を取り戻す

図 20.水戸街道(牛久～水戸区間)の宿場町

③ 「**景観**」を取り戻す

最初の提案である「映画のロケ地として発展させていく」を実現するには街の景観の維持も大切となる。そこで歴史保存地区の中途半端な街並みを江戸時代の蔵作りの街並みに統一させることを目指す。

具体例として三重県伊勢の「おはらい町」がある。おはらい町では、

・各店の造りや看板などの外装が統一されている
・道がフラットである
・休日は歩行者専用道となっている

という特徴があり、中心街の歴史保全地区が駐車場や空き店舗によって虫食い状態になっている土浦市にこの特徴を取り入れることで町並みに一体感を持たせる。

④ 「**活力**」を取り戻す

新治地区の東京に近い立地ながら田園風景が残されている(図 21)という利点を活かすために「ノウリンピック」を開催することを提案する。「ノウリンピック」とは田んぼ・畑・山林など自然が豊かな新治で農業の技術を競い合う大会のことである。例として田植え競争や稲の刈り取り競争などがあげられる。

前例紹介としては佐賀県鹿島市で毎年開催されている「ガタリンピック」がある。ここでは干潟で行われる「潟スキー」など干潟を活かした催しで観光客を集めている。この「ガタリンピック」を参考に「ノウリンピック」を開催することで活気を取り戻すことにつなげる。

図 21.新治に残された田園風景

⑤ 「**ウナギ**」を取り戻す

1960 年代、霞ヶ浦は天然ウナギ漁獲量の全国の 1/3 を占めていた。ところが 1970 年代に日立側水門を完全閉鎖したことにより海水が霞ヶ浦にまったく入らなくなった　こと、水の交換がされなくなったことを一因とする水質の　悪化が起こり、ウナギを含む多種の生き物が姿を消した。そこで再び水門を開けることを提案する

水門の開放によって霞ヶ浦でウナギが取れるようにすることで、再び霞ヶ浦を天然のウナギの産地として蘇らせ、霞ヶ浦の資源価値を高めるのである。

実際に 20007 年、「カムバックウナギシンポジウム」にてＮＰＯ法人「アサザ基金」がウナギを呼び戻すために常陸川水門（逆水門）を開放することを提案し、流域ぐるみでウナギの復活を目指している。

この提案には水門を開放することによる流域の円買いの危険性や、放射線被害など課題も多く残っている。

この 5 つの提案

・新治地区に「活気」を取り戻す
・中心市街地に「観光客」と「景観」を取り戻す
・荒川沖に「公共交通」を取り戻す
・霞ヶ浦に「うなぎ」を取り戻す

を実行することにより土浦市の各地区で賑わいが取り戻される(図 22)

図 22.各地区と「取り戻す」

4.今後の展望

・NPO 法人「アサザ基金」へのヒアリング

実際に常陸川水門を開けることを提案し、霞ヶ浦のウナギ漁が復活するための活動を行っている「アサザ基金」に具体的にどのような活動をしているのか？ウナギ漁復活のための課題は何か？を伺う。

・「おはらい町」を管理する伊勢市観光協会へのヒアリング

景観の統一に成功している三重県伊勢市の「おはらい町」に、景観統一のポイントと障壁、土浦市にも取り入れることが可能かということを伺い土浦市の歴史保全地区強化の提案につなげる

・霞ヶ浦の水質向上による効果の調査

霞ヶ浦で現在行われている水質浄化活動の効果と、水質浄化したことでどのような変化があったかを調べる。

・中越通りの実態調査

中越通りに来る観光客の数や、観光客がどこから来るかを調査することで、中越通りをどう改善すればより観光客が土浦に来るようになるかを考え、観光客を取り戻す提案を強化する。

・新治での稲刈りへの参加

実際に農業体験をすることで「ノウリンピック」ができるかどうかを現場の人に聞くとともに体感し、新治地区の賑わい創出提案の糧とする。

・土浦で開催されるイベントへの参加

自分の目で見て自分の体で体験し土浦の現状を正しく把握する。

5. 参考文献

＜土浦市＞
http://www.city.tsuchiura.lg.jp/index.php
＜統計つちうら＞
http://www.city.tsuchiura.lg.jp/dir.php?code=1548
＜土浦市観光協会＞
http://tutiura.727.net/
＜伊勢市観光協会＞
http://www.ise-kanko.jp/
＜JR 東日本＞
http://www.jreast.co.jp/
＜土浦の歴史＞
＜第 6・7 次土浦市総合計画＞
＜土浦市景観まちづくりアンケート＞
＜いばらき統計情報ネットワーク＞
＜観光客動態調査報告＞
＜土浦市民満足度調査＞